

県立こども医療センター

医療と福祉を融合



こども医療センター全体を写した航空写真(昭和48年頃)

全国に先駆けた施設

＜こども医療センターの特徴＞

県では、昭和41（1966）年から医療と福祉を融合（結合）した小児総合医療施設の計画を進め、昭和45（1970）年4月、全国で初めて、高度又は困難な疾患を有するこどものための小児専門病院に、児童福祉法に基づく肢体不自由児及び重症心身障害児の施設を併設した、こども医療センターを開設しました。

昭和51（1976）年に循環器・精神療育棟（現・管理棟、こころの診療病棟）、昭和52（1977）年に県立横浜南養護学校（現・県立横浜南支援学校）が開設され、こどものための医療・福祉・教育三位一体の施設となりました。

また、平成4（1992）年には周産期棟を開設し、日本の小児病院の中で最初に産科が設置され、ひとつの施設で周産期医療を完結する先駆けとなりました。

令和元（2019）年には、当時県内最大のNICU・新生児病棟を更に増床した上で、全面リニューアルの改築をし、「集中治療と家族生活を両立できるNICU」を目指しています。



がんばれ！小さき生命たちよ Ver2より



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ